

ヨシナカ新聞

6月号

発行所

株式会社ヨシナカ

東京営業所

TEL:03-3555-0796

コンサートとニチニチソウ

先日、ハオチェン・チャンというピアニストのコンサートに行つて来ました。ショパン、ベートー

ベン、ブラームス等の曲を演奏されていました。フォルテシモの力強い音からピアノシモの繊細な音まで表現が素晴らしく聞き惚れてしまいました。また、今年で24才と若く、まだ少年の面影が残る少し恥ずかしそうな笑顔に女性ファンが急増したように、サイン会も盛況でした。

先程のハオチェン・チャンと重なって微笑ましく感じました。

ニチニチソウはキョウチクトウ科ニチニチソウ属の一年草で、初夏から晩秋まで次々に花が咲きます。主に観賞用として栽培されており、切り戻し(伸びすぎた茎を切り取る)と摘心(本葉の数が8枚くらいの大ささになったら先端の芽を摘む)、日当たりの良い場所に置く事が栽培のコツなのだそうす。

そんな素晴らしいコンサートの余韻を残しながら会場から駅へと向かう通りをゆつくりと歩いていると、道沿いに咲いているニチニチ草に目がいききました(写真)。左側の花の赤を少し貰ったように右側の花が少しピンクがかっているのが、



ステンレス豆知識 『熱伝導性』

ステンレス鍋で料理をすると、とても焦げやすく、また、多少こすつても落ちなくなります。それはステンレスの熱伝導率が小さいことが原因です。

各種金属材料板を用い、目玉焼きを作った実験結果によると、板厚1mmのCu及びAl板を用いた場合には殆ど

焦げつきがなく、板厚を5mmに増すとさらに焦げ付きにくくなったのに対し、板厚1mmのステンレス板の場合は、ガスレンジの炎直上地点に沿ってスポット状に焦げ付きやすく、板厚を5mmにすると若干改善されたそうです。

熱伝導率が悪く、かつ板厚が薄いと鍋底の横方向温度分布が不均一になり、炎直上地点に沿って高温部分

で焦げが発生しやすいと推測されます。厚手のCu鍋かAl鍋を使用するのが焦げから解放される近道といえるでしょう。

また、ステンレス鋼鍋の焦げが落ちにくいのは、おそらく下地材の強度と耐食性がCuやAlに比べ強いため、焦げ付き膜が剥離・除去しにくいと考えられます。

イケメン仏像ベスト3

先月号に続いて仏像の話題です。仏像に詳しい宮沢やすみさんという方がラジオで仰っていたイケメン仏像ベスト3を紹介します。なお、今回はK社員の感想も掲載させて頂きました。

第3位 奈良 東大寺 広目天(天部)

手に巻物と筆を持っている。今でいう紙とペン、つまりメモ魔。人の行いを見て記録し、上司に伝える役目。

少し恐いおじさん顔だが、頼れる上司という感じ。手は女性的なしなやかな綺麗な手。仕事が出来て寡黙で余計な事はいわない出来る公務員風。

K社員の感想

『ハマの大魔神』と呼ばれた元横浜ベイスターズの佐々木主浩投手が顔をしかめたような感じでイケメンとはかけ離れているが、

確かに頼りになりそう。ウエストが引き締まっている。

第2位 鎌倉 東慶寺 水月観音(菩薩)

東のイケメンと呼ばれている。草食系の安らかな表情。くつろぎ王子。座像で岩に斜めにしなだれかかかってリラックスしている。像高は34cmと小さく机の上に乗るような感じ。涼しげな目元で安らかな顔をしている。綺麗な顔を好む女性に人気がある。

水面に映る月を見ているという設定。月を手にとろうとしても取れない、その悟りを掴もうとしても悟りきれない。それが物憂げな表情になっているのだろう。

K社員の感想

ふっくらしたお顔なので、イメージしていたイケメンとは違う感じだが、綺麗な顔立ち。胸元辺りから延びている茎が笑える。

第1位 京都 東寺 帝釈天(天部)

断トツで女性に人気の西のイケメン。象

に乗っている。今で言うなら外車を乗り回してブイブイ言わせている感じ。

インドの神様として活躍していた。インド時代の神話を見ると、結構な女性好きでインドの美女を片っ端からおイタしたり、阿修羅の娘をかどわかした事がきっかけで戦争になってしまったというエピソードがある。その結果仏罰があたり、全身に女性の大切なものを千個(無限という意味)貼り付けられた。釈迦に懺悔したところ、それが目が変わり、それから何でも見える能力がついた。帝釈天のおでこには第三の目があるが、それが罰の名残であると言われていた。今は改心して仏教界の中間管理職として活躍している。顔立ちがクールでイケメン。デートもそつなくこなすようなイメージが女性にとってはたまらないとの事。

K社員の感想

.....

K社員のフルート奮闘記

仰向け足上げ練習の成果

仰向けになり、足を少し上げながら吹く事で、腹式呼吸のコツが少しわかったような感じで、フルートの音に変化が出て来ました。

今までは細くて擦れたようなキンキンした音しか出なかったのが、芯のある太い音が出始めるようになりました。喉から太めのパイプをお腹まで差し込んで、そのパイプの中をお腹から息を出して喉を通わせてフルートに届けているようなイメージです。

特に低音が良く鳴り出しました。そのことは先生も褒めて下さいました。低音が良く出るとい事は基本に忠実に吹いている証拠なのだそうす。

こうして音質は良くなったものの、この方法では息の調節が出来ないので、吹き始めるとすぐ空気がなくなってしまう、ロングトーンになりません。蛇口で水の量を調節するように、息の量を調節する事が必要になって来ました。